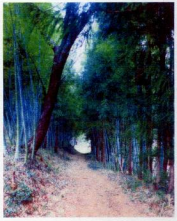
## 奥大道

名取市の西方を南北に続く愛島高舘丘陵地帯に沿って古代の官道“東山道”が、陸奥国府（多賀城）まで通っています。この官道は中世になっても“奥大道”として、政治経済文化の伝播の役割を担っていました。

Ⅱ-12-①



Ⅱ-12-②

## 新宮寺

所在地：名取市高舘熊野堂字岩口中35

Ⅱ-13

号は熊野山。真言宗で、元は京都醍醐聖恩寺末。本尊は不動。御霊返上格だった。開山の年代は不明で明治以降京都の智積院末となる。藩政時代は17坊あったが、学頭坊は寛永年間（1624～1644）に国分盛重の子玄性房舜済法印が中興したという。熊野堂の別当で末寺は仙台市中田の宝泉寺や、名取市内の観音寺（北釜）、金剛寺（高舘川上）、安養院（愛島笠島）などがある。

Ⅱ-13

## 新宮寺　一切経

所在地：名取市高舘熊野堂字岩口中35
所有者：新宮寺蔵

一切経は、仏教聖典の総称したもので別名大蔵経ともいう。

新宮寺文殊堂には、写経された一切経が 3,000巻（国指定2,568巻、市指定411巻）祭り伝わっている。これほどの書経された一切経は、平泉の中尊寺経を除くと東日本では見られない。

新宮寺において一切経事業を開始したのは鎌倉中期のごく始め頃で、他寺からの経巻の移入や新宮寺での書写により、ほぼ寛喜2年（1230）頃には完成している。その後、鎌倉後期に若干の補写を行い、南北朝の動乱期に大般若経600巻（現在約400巻現存）の書写がなされた。

この一切経には、山形県の慈恩寺や立石寺（山寺）、宮城県の国分寺などの寺院名もみえ、この事業に由緒のある寺々が参画していたことを伺わせる。

Ⅱ-14

Ⅱ-14